

子宮頸がん予防の HPV ワクチンについて正しく理解しましょう

2025 年 9 月度
衛生委員会資料
産業医 北村香奈

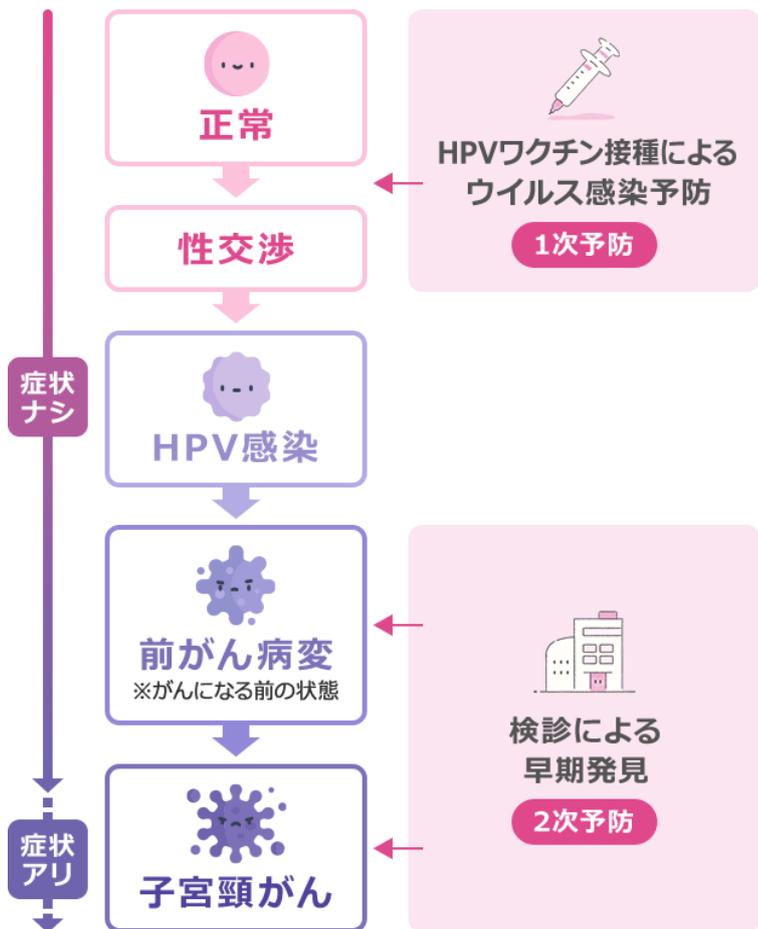
HPV ワクチンは、子宮頸がんの原因であるヒトパピローマウイルス（HPV）の感染を予防するワクチンです。子宮頸がんのほとんどは、主に性交渉によって感染する HPV が原因のため、感染予防としてのワクチン接種が大切です。HPV は、性交渉の経験がある女性なら誰でもかかる可能性があります。（一生で 80%の女性が感染すると言われていています）

また、子宮頸がんの中には検診で見つかりにくいがんもあるため、できる限りウイルスに感染する前のワクチン接種が大切です。

検診で見つかりにくいがんもある、とは言いましたが、やはり検診は大事です。現状自治体が推奨し補助している細胞診以外に HPV 検査（がんになる可能性の高いウイルスかどうかの検査）を行うことで格段にがん陽性感度は上がります。

1 次予防としてのワクチン接種、2 次予防としての検診が非常に大切ということです。

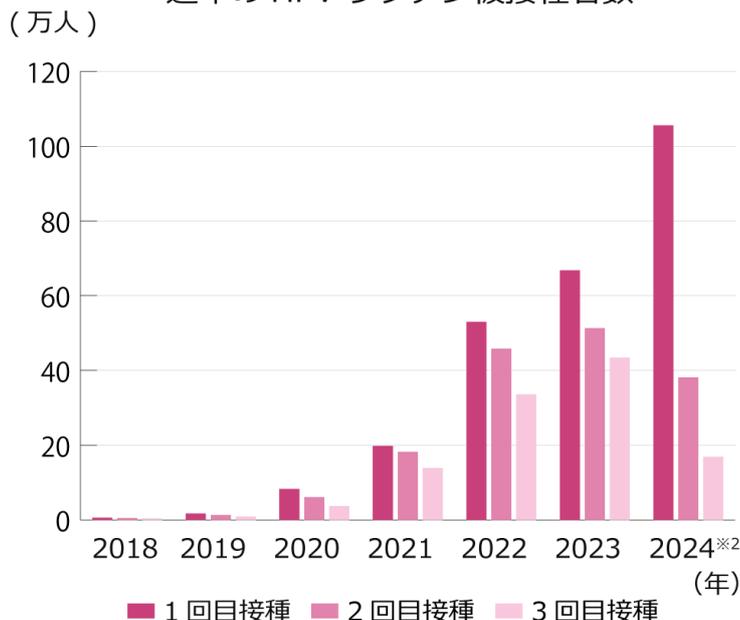
ワクチン接種と検診のフロー



日本の接種状況

HPV ワクチンは一時、積極的な接種勧奨が控えられていましたが、2022 年 4 月より勧奨が再開され、キャッチアップ接種も行われました。そのため、2022 年 4 月 1 日から 2024 年 9 月 30 日までの約 2 年半で 3 回目接種を完了された方は約 94 万人いることがわかっています。

近年の HPV ワクチン被接種者数^{※1}



しかし、世界的にみると、日本のワクチン接種率はとても低いのです。WHO のデータをもとに、日本以外の G7 参加国の HPV ワクチンの接種完遂率を比較すると、国によって差はありますが、半数以上が 50% を超えています。WHO ではワクチン接種により子宮頸がんは完全に無くせる、と考えており、日本もワクチン接種について正しく理解し、できれば小学校高学年から中学生くらいの間にワクチン接種を受けて、子宮頸がんに怯えなくてもいいようになればと思います。

また、HPV は女性にだけ影響があるわけではありません。実は男性の肛門がん、中咽頭癌、尖圭コンジローマなどに影響します。そして、中咽頭癌が日本においてとても増えている、という現状があるのです。今後は国に検討いただき、男性にも HPV ワクチンを推奨し補助する制度ができればと思いますし、男性もひとごとではないのだ、と理解していただきたいです。

今回は、子宮頸がんワクチンについて正しく理解していただきたいと思い、日本のワクチン接種状況もまじえてお伝えしました。2030 年目標としてワクチンと検診で子宮頸がんを 90% おさえる、が掲げられています。ご自身のためにもですし、お子さんがいらっしゃる方にはお子さんのためにも、子宮頸がんワクチンの情報を理解して接種をご検討いただければと思います。